

神奈川県 商工会地区

中小企業景況調査報告書

— 令和7年4月～6月期 実績 —
— 令和7年7月～9月期 見通し —



神奈川県商工会連合会

中 小 企 業 景 況 調 査(令和7年4月～6月期)

◇調査概要

1. 調査目的

商工会地区内の地域産業の状況、経済動向等について一定期間ごとに変化の実態や諸事情を把握し、経営改善普及事業の効果的实施を図る。

2. 調査対象

(1)対象地区 10商工会地区
(葉山町・伊勢原市・大磯町・湯河原町・座間市・愛甲・南足柄市・足柄上・城山・相模湖)

(2)対象企業数 150企業

(3)回答企業数 150企業(回答率100.0%)

3. 調査対象期間

令和7年4月～6月期(調査時点 令和7年6月1日)

4. 調査方法

(1)商工会の経営指導員による訪問面接調査

(2)調査対象地区の決定は、商工会地区市町村の人口規模別実態を勘案し、調査対象企業の抽出は、業種、規模等有意選出法による。

5. 対象地区別回答企業数内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	調査企業数
葉山町商工会	3	2	3	7	15
伊勢原市商工会	3	2	2	8	15
大磯町商工会	3	2	4	6	15
湯河原町商工会	3	2	4	6	15
座間市商工会	3	2	4	6	15
愛甲商工会	3	2	4	6	15
南足柄市商工会	3	1	6	5	15
足柄上商工会	3	3	4	5	15
城山商工会	3	2	4	6	15
相模湖商工会	1	3	3	8	15
合 計	28	21	38	63	150

6. DIとは

本報告書の中で一部数字に用いた「DI」指数とは、ディフュージョンインデックス(景気動向指数)の略で、企業経営者の景気見通しを表す指標として利用されている。

増加(上昇、好転、長期化)と減少(低下、悪化、短期化)の企業割合の差を示す。

DIがプラス(+)なら……強気(楽観)

DIがマイナス(-)なら……弱気(悲観)

(例)売上高で増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合のDI指数

DI指数・・・50%－20%＝30%

となり、全体としての経営者の売上に対する強気の度合いを表している。

◇業種別（中分類）企業構成

(1)製造業

業種内訳	企業数	構成比
食料品製造業	3	10.7%
飲料・飼料・たばこ製造業	0	0.0%
繊維工業	0	0.0%
衣服・その他繊維製品製造業	1	3.6%
木材・木製品製造業	1	3.6%
家具・装備品製造業	3	10.7%
パルプ・紙・紙加工品製造業	2	7.1%
印刷・同関連業	1	3.6%
化学工業	1	3.6%
プラスチック製品製造業	1	3.6%
窯業・土石製品製造業	1	3.6%
金属製品製造業	5	17.9%
一般機械器具製造業	1	3.6%
電気機械器具製造業	2	7.1%
輸送用機械器具製造業	2	7.1%
精密機械器具製造業	1	3.6%
その他製造業	3	10.7%
合 計	28	100.0%

(2)建設業

業種内訳	企業数	構成比
総合工事業	8	38.1%
職別工事業	11	52.4%
設備工事業	2	9.5%
合 計	21	100.0%

(3)小売業

業種内訳	企業数	構成比
各種商品小売業	0	0.0%
織物・衣服・身の回り品小売業	5	13.2%
飲食料品小売業	19	50.0%
自動車・自転車小売業	4	10.5%
家具・建具・じゅう器小売業	0	0.0%
その他小売業	10	26.3%
合 計	38	100.0%

(4)サービス業

業種内訳	企業数	構成比
一般飲食店（一般・遊興）	22	34.9%
宿泊業	1	1.6%
運送業	1	1.6%
自動車整備業	6	9.5%
洗濯・理美容業	21	33.3%
その他のサービス業	12	19.0%
合 計	63	100.0%

◇産業全体の景況概要

◇…経済活動の停滞や人件費の上昇の影響で、伸び悩む小規模企業景況…◇

神奈川県における各産業別の前年同期と比べた業況DIの推移は、【産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移】に示すとおりである。

【業種別景況天気図】をみると、令和7年4-6月期は、回復度合いに明暗が分かれた。

業況判断DIは前期に比べ、建設業が2.1ptと小幅に改善し、サービス業が6.4ptと大幅な改善となった。

一方、製造業はマイナス1.0pt、小売業がマイナス1.6ptと小幅な悪化となった。

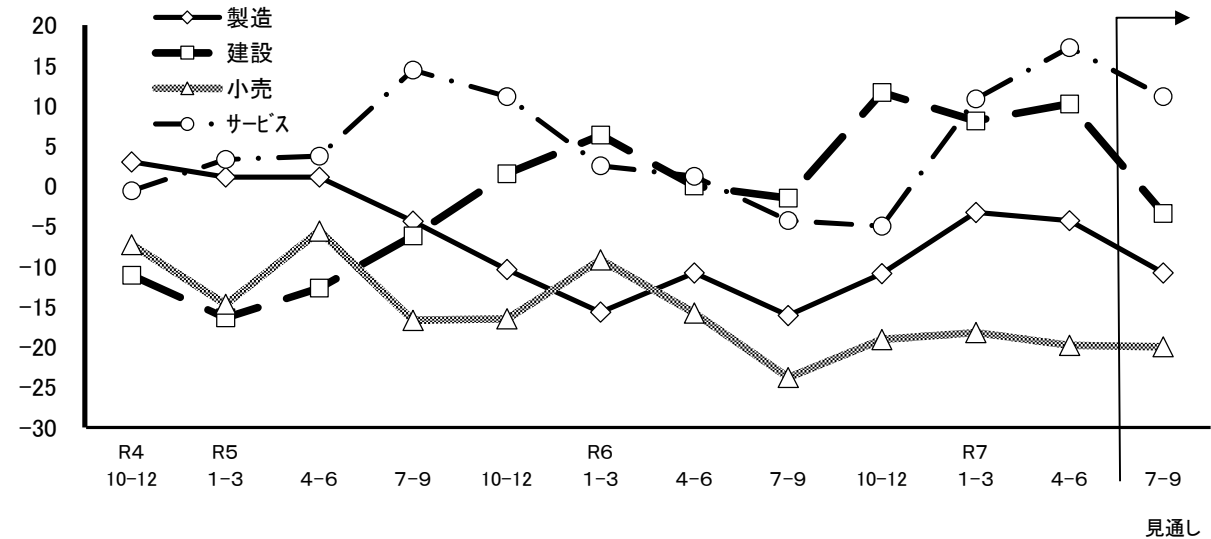
全業種平均では、前期マイナス0.7ptからマイナス0.8ptと0.1ptとほぼ横ばいとなった。

季節柄、イベント月(入学・ゴールデンウィーク)のため一部の業種が好転している。

だが、依然として、原材料価格や人件費の上昇、また人手不足により、価格転嫁に限界を感じており、先行きを不安視する声が目立った。

また、今後もランプ関税や原油価格の動向における影響についても注視していく必要があるとの声もある。

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
(令和4年10-12月期～令和7年4-6月期)



業種別景況天気図

	製 造 業 28 企業		建 設 業 21 企業		小 売 業 38 企業		サービス業 63 企業	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
R6/7-9	△ 16.1		△ 1.5		△ 23.8		△ 4.3	
R6/10-12	△ 10.9		11.6		△ 19.1		△ 5.0	
R7/1-3	△ 3.3		8.1		△ 18.2		10.8	
R7/4-6	△ 4.3		10.2		△ 19.8		17.2	
R7/7-9 (見通し)	△ 10.8		△ 3.4		△ 20.0		11.1	

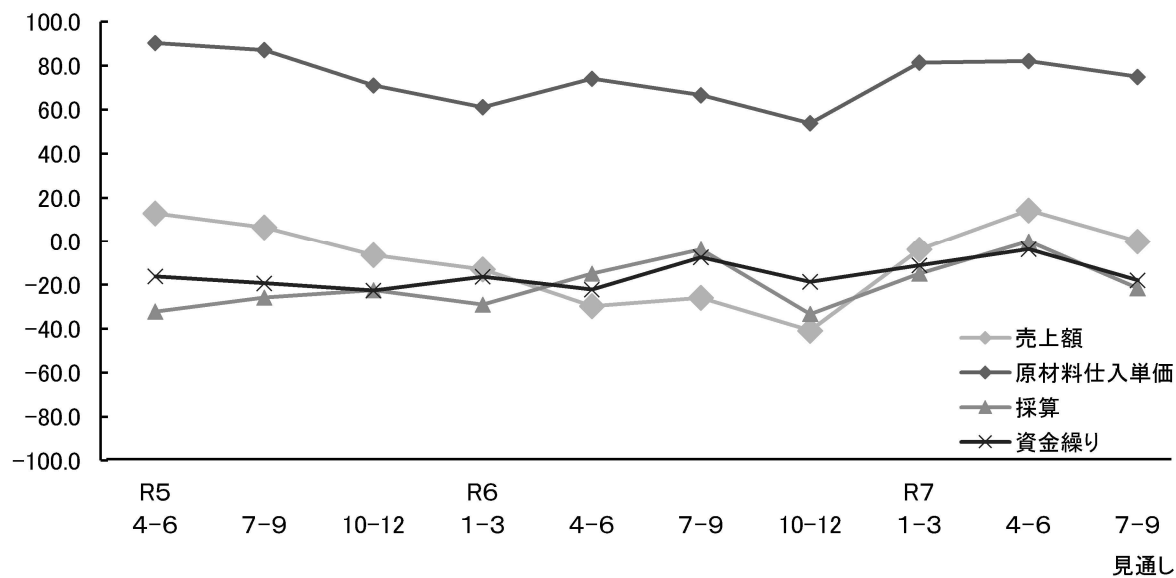
DI: 30.1～……………
DI: 10.1～30.0………
DI: 10.0～△10.0…
DI: △10.1～△30.0
DI: △30.1～……………



◇業種別景況概況

I 製造業

主要景況項目の推移—前年同期比—



主要項目の天気図

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
R6/7-9	△ 25.9		△ 3.7		△ 7.4		△ 16.1	
R6/10-12	△ 40.8		△ 33.3		△ 18.5		△ 10.9	
R7/1-3	△ 3.7		△ 14.8		△ 11.1		△ 3.3	
R7/4-6	14.3		0.0		△ 3.6		△ 4.3	
R7/7-9 (見通し)	0.0		△ 21.4		△ 17.9		△ 10.8	

DI: 30.1～……………



DI: 10.1～30.0………



DI: 10.0～△10.0…



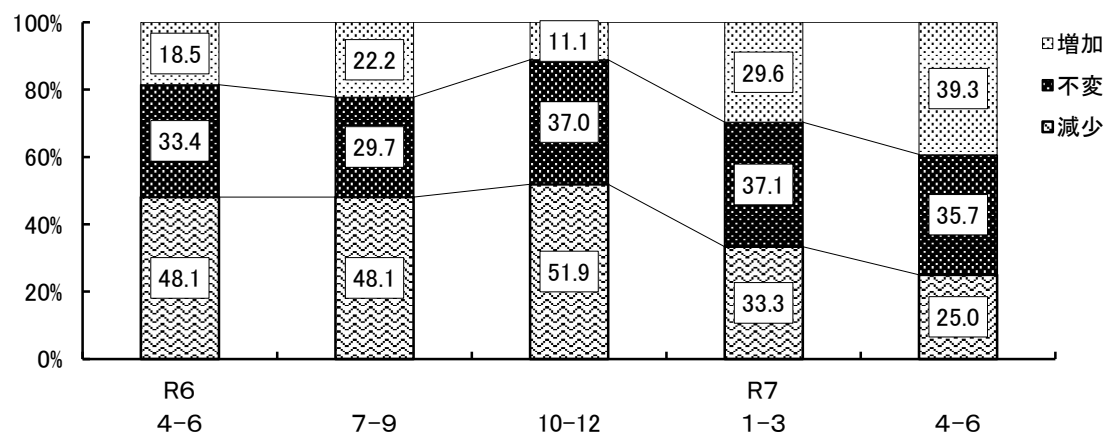
DI: △10.1～△30.0・



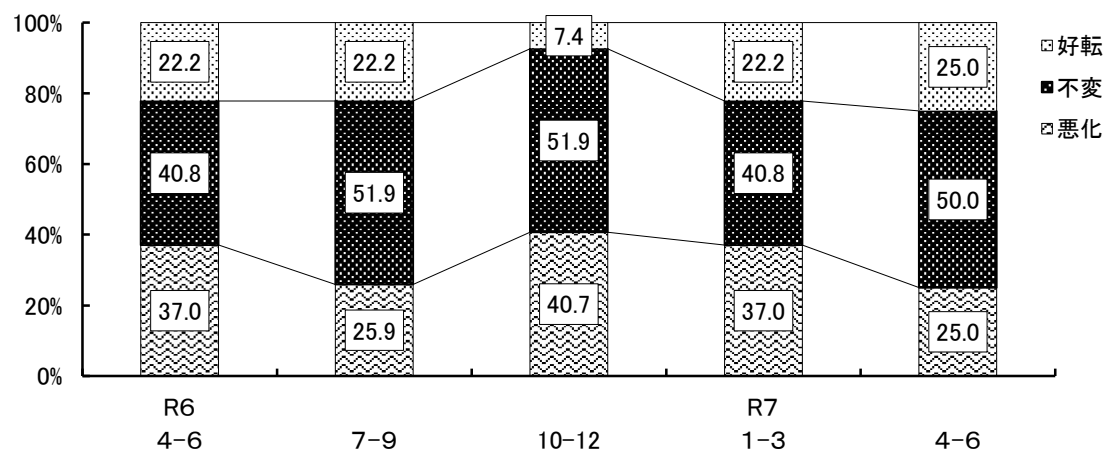
DI: △30.1～……………



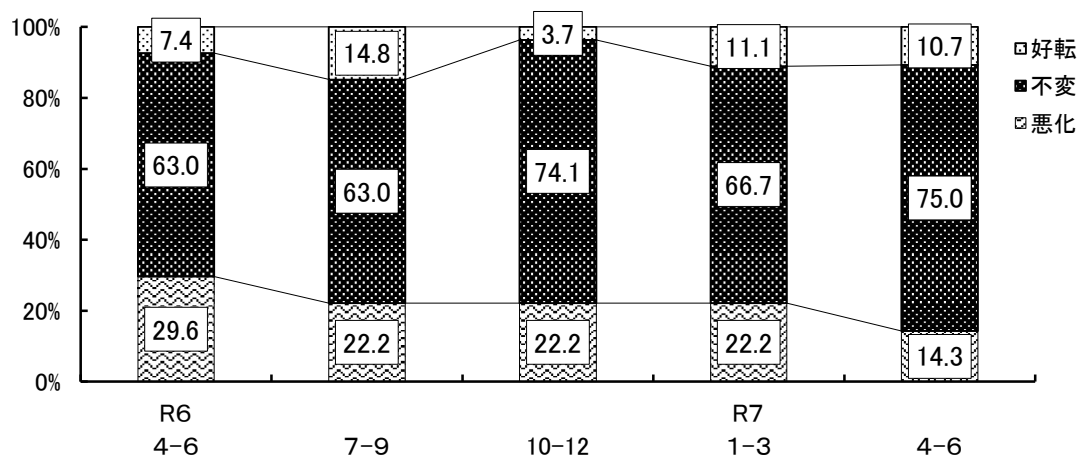
① 売上額の状況－前年同期比－



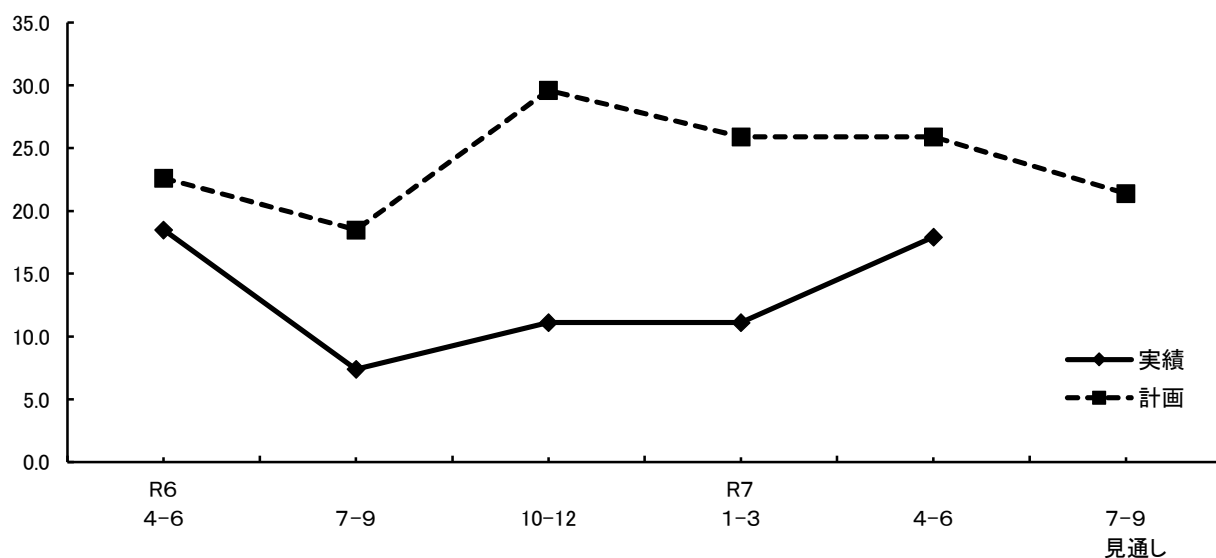
② 採算の状況－前年同期比－



③ 資金繰りの状況－前年同期比－

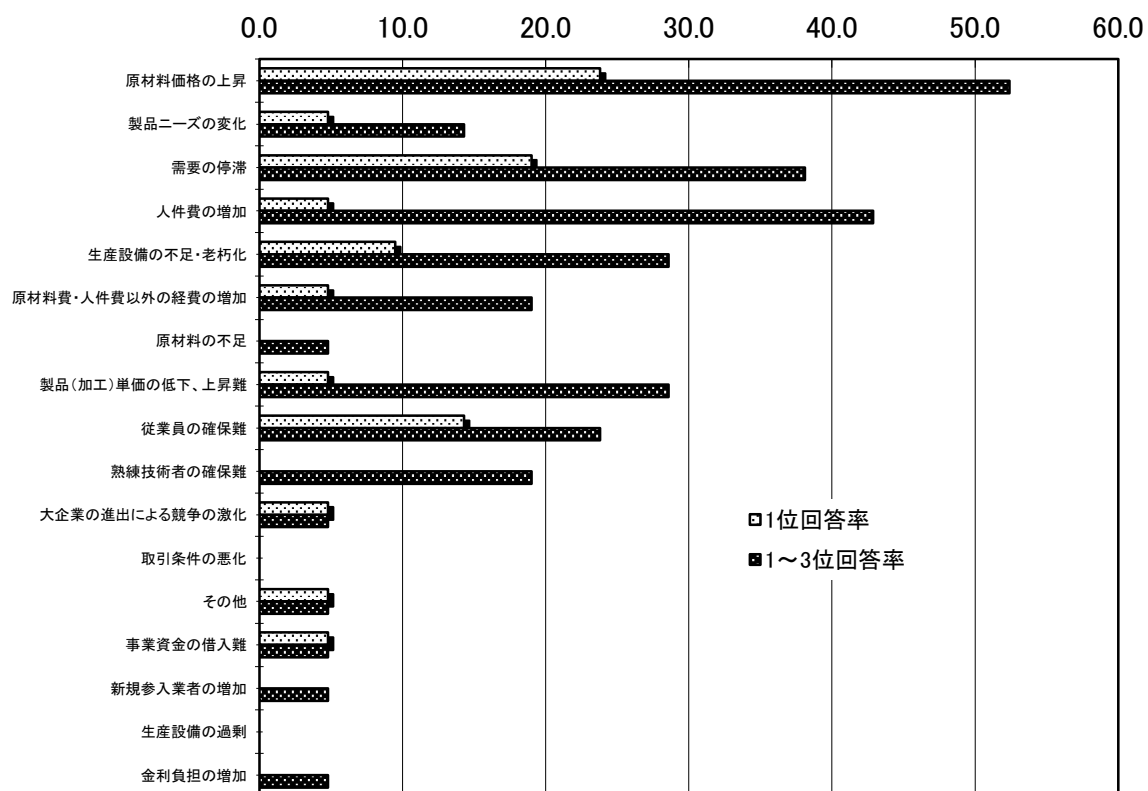


④設備投資の状況



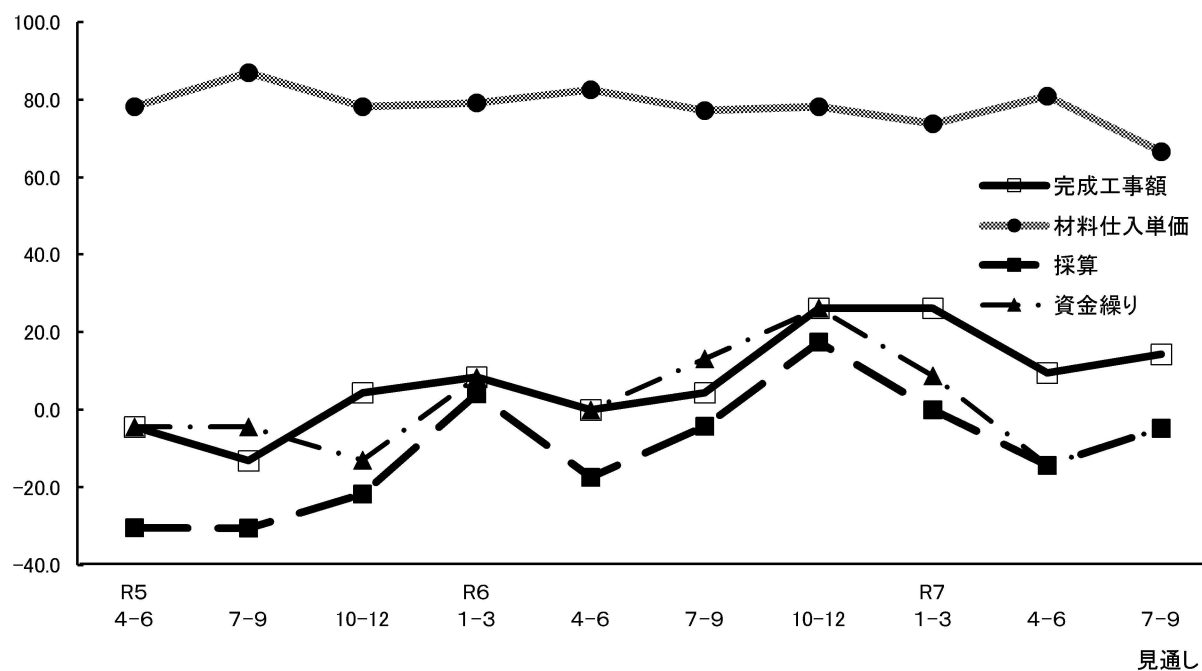
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



Ⅱ 建設業

主要景況項目の推移—前年同期比—



主要項目の天気図

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
R6/7-9	4.4		△ 4.3		13.1		△ 1.5	
R6/10-12	26.1		17.4		26.1		11.6	
R7/1-3	26.1		0.0		8.7		8.1	
R7/4-6	9.5		△ 14.3		△ 14.2		10.2	
R7/7-9 (見通し)	14.3		△ 4.7		△ 4.8		△ 3.4	

DI: 30.1～.....



DI: 10.1～30.0.....



DI: 10.0～△10.0...



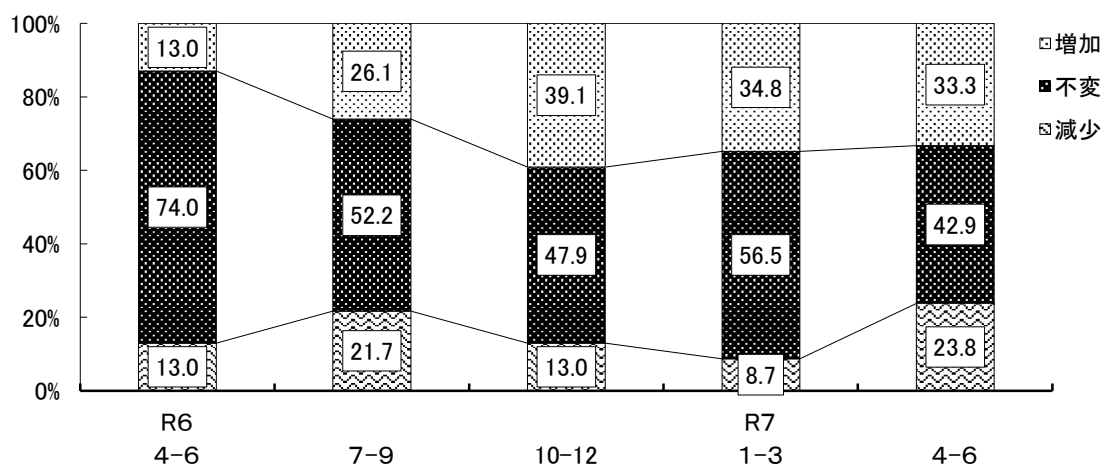
DI: △10.1～△30.0...



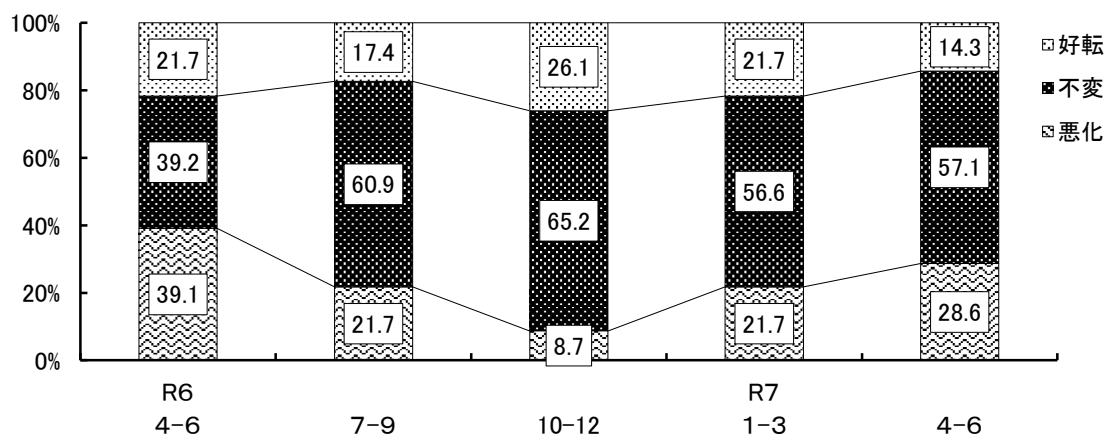
DI: △30.1～.....



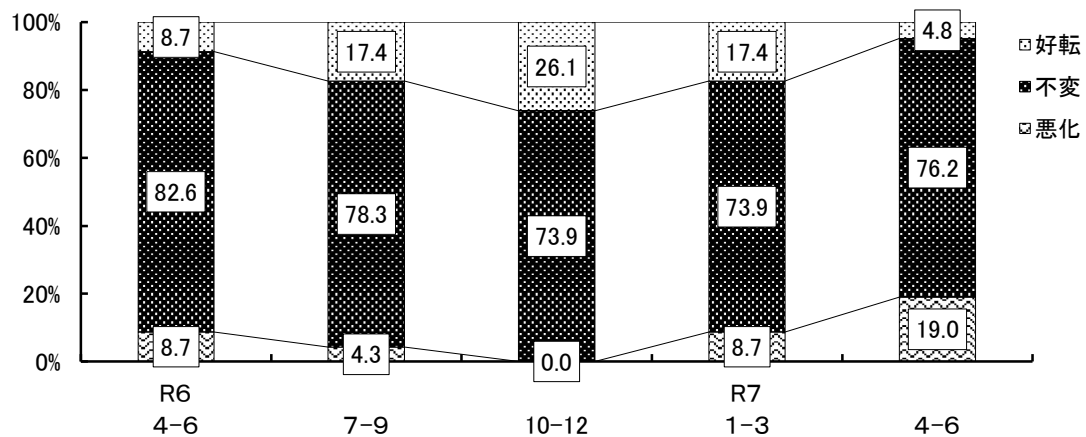
①完成工事額の状況－前年同期比－



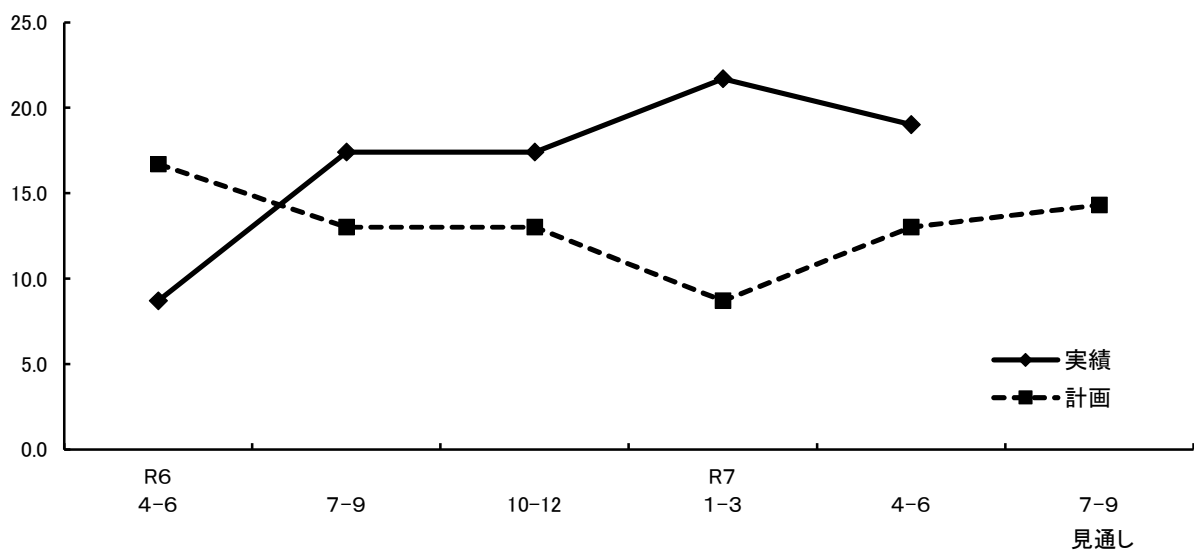
②採算の状況－前年同期比－



③ 資金繰りの状況－前年同期比－

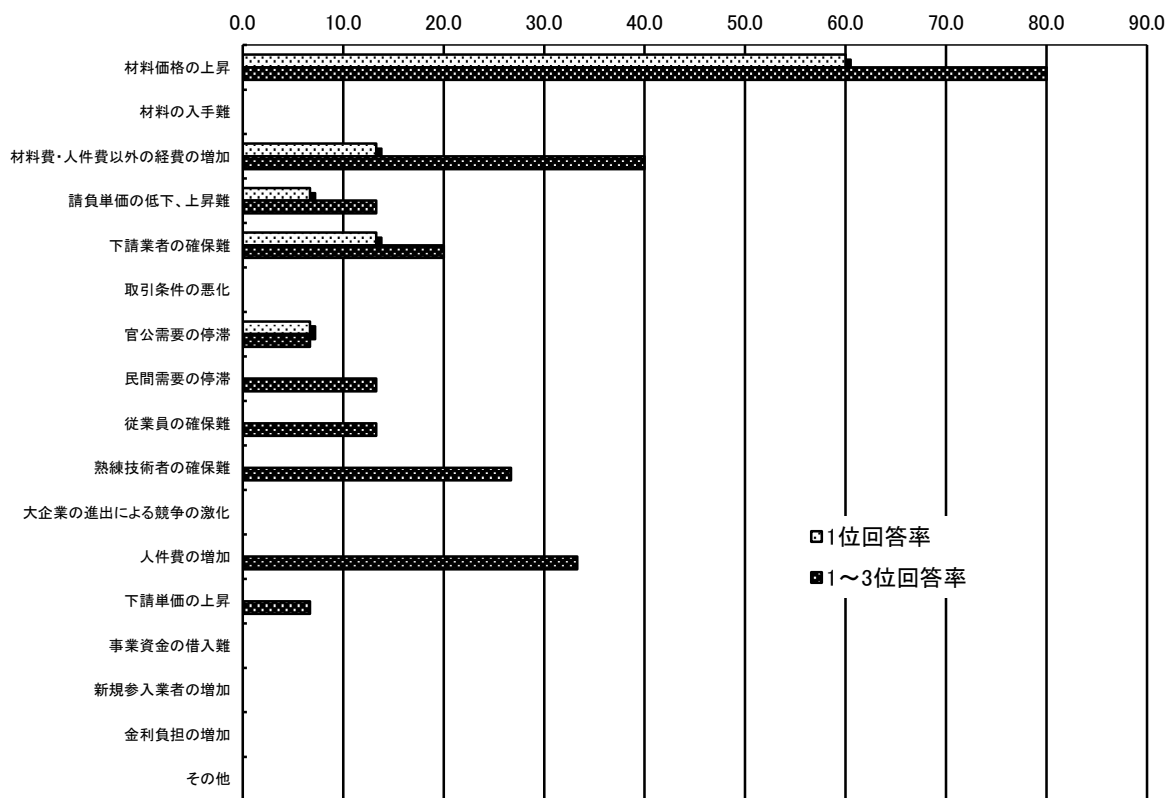


④設備投資の状況



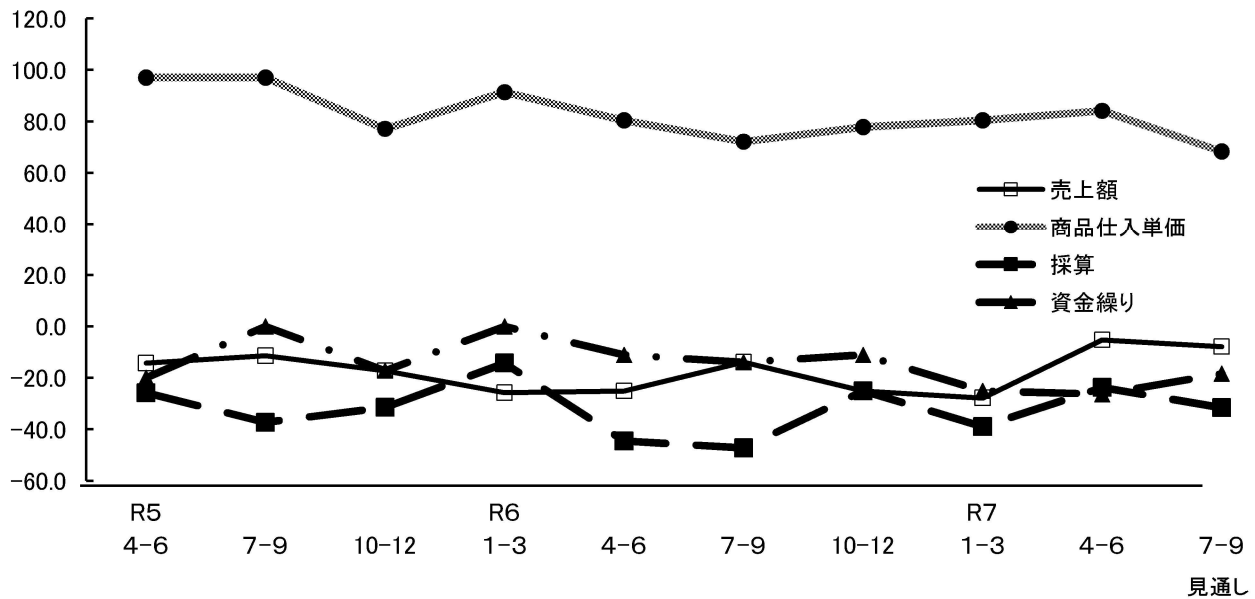
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



Ⅲ小売業

主要景況項目の推移—前年同期比—

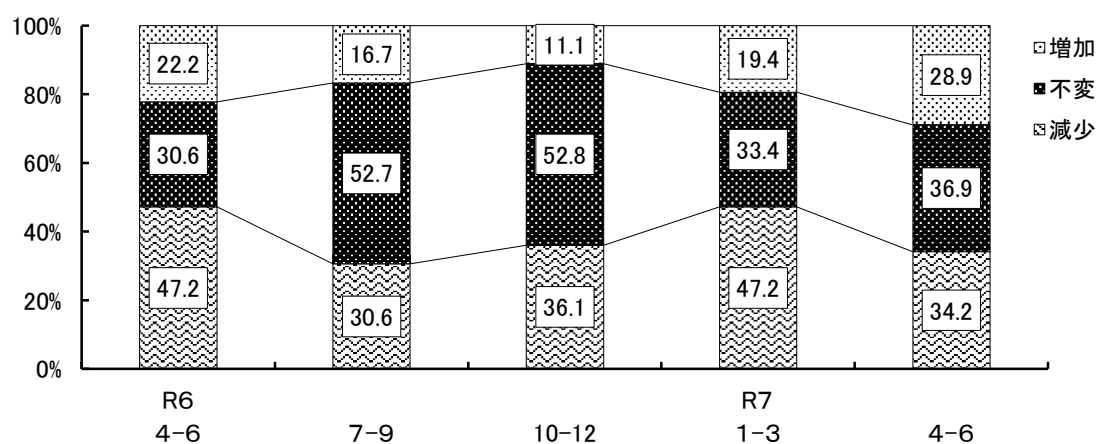


主要項目の天気図

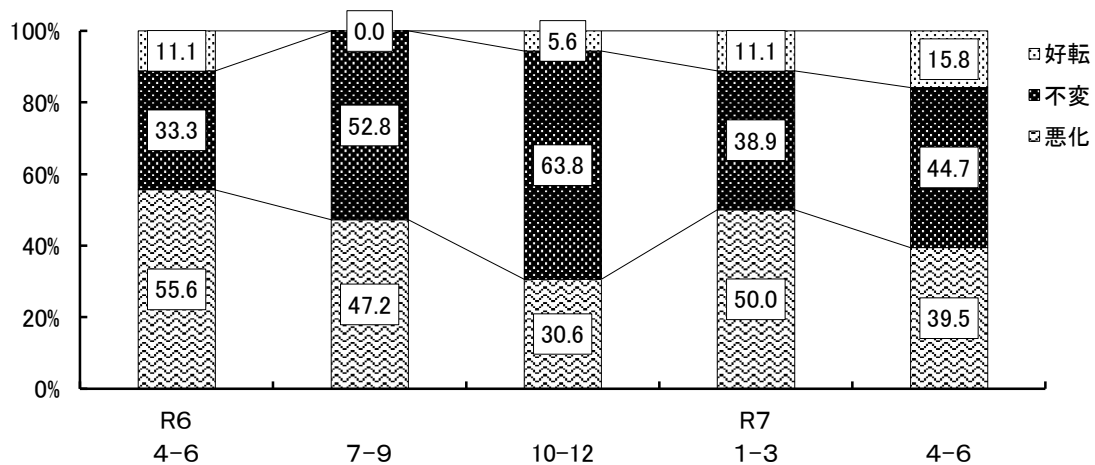
	売上額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
R6/7-9	△ 13.9		△ 47.2		△ 13.9		△ 23.8	
R6/10-12	△ 25.0		△ 25.0		△ 11.1		△ 19.1	
R7/1-3	△ 27.8		△ 38.9		△ 25.0		△ 18.2	
R7/4-6	△ 5.3		△ 23.7		△ 26.3		△ 19.8	
R7/7-9 (見通し)	△ 7.9		△ 31.6		△ 18.4		△ 20.0	

DI: 30.1~.....
 DI: 10.1~30.0.....
 DI: 10.0~△10.0...
 DI: △10.1~△30.0•
 DI: △30.1~.....

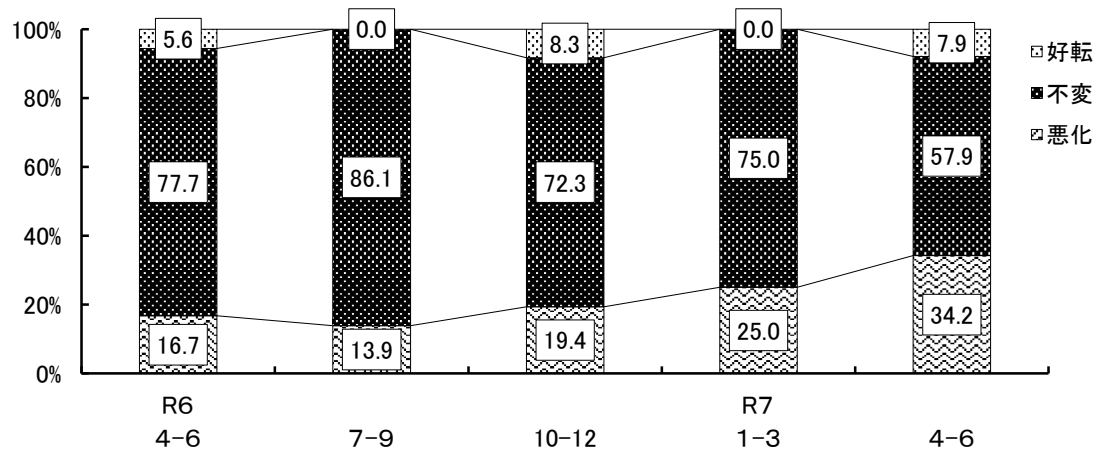
①売上額の状況－前年同期比－



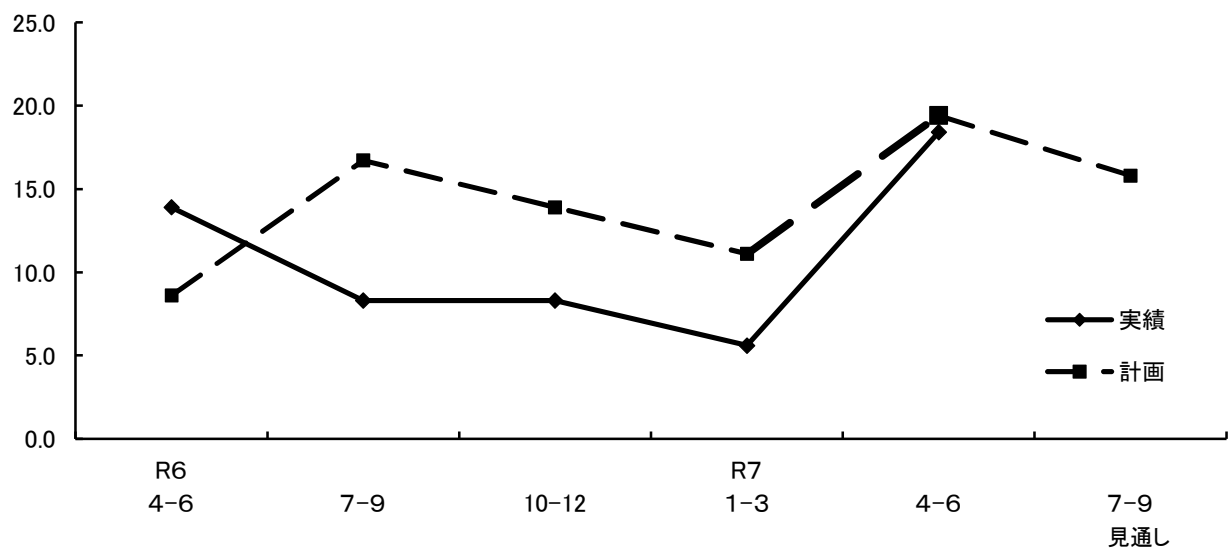
②採算の状況－前年同期比－



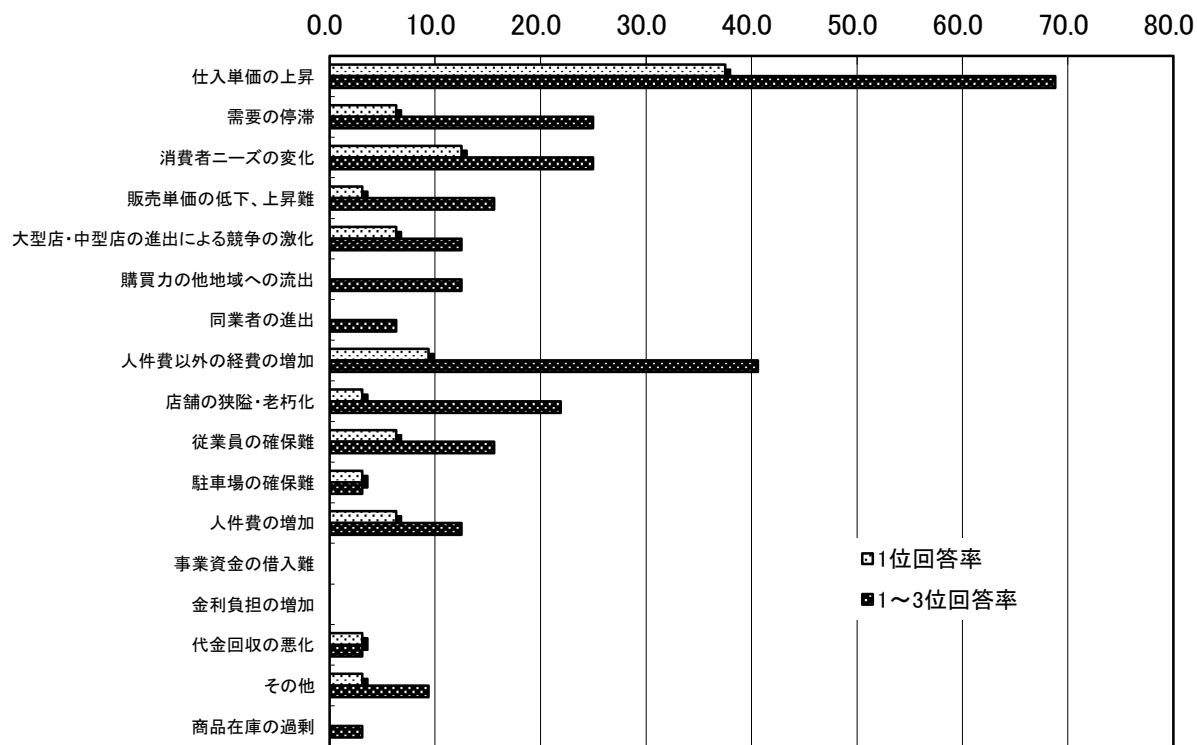
③資金繰りの状況－前年同期比－



④設備投資の状況

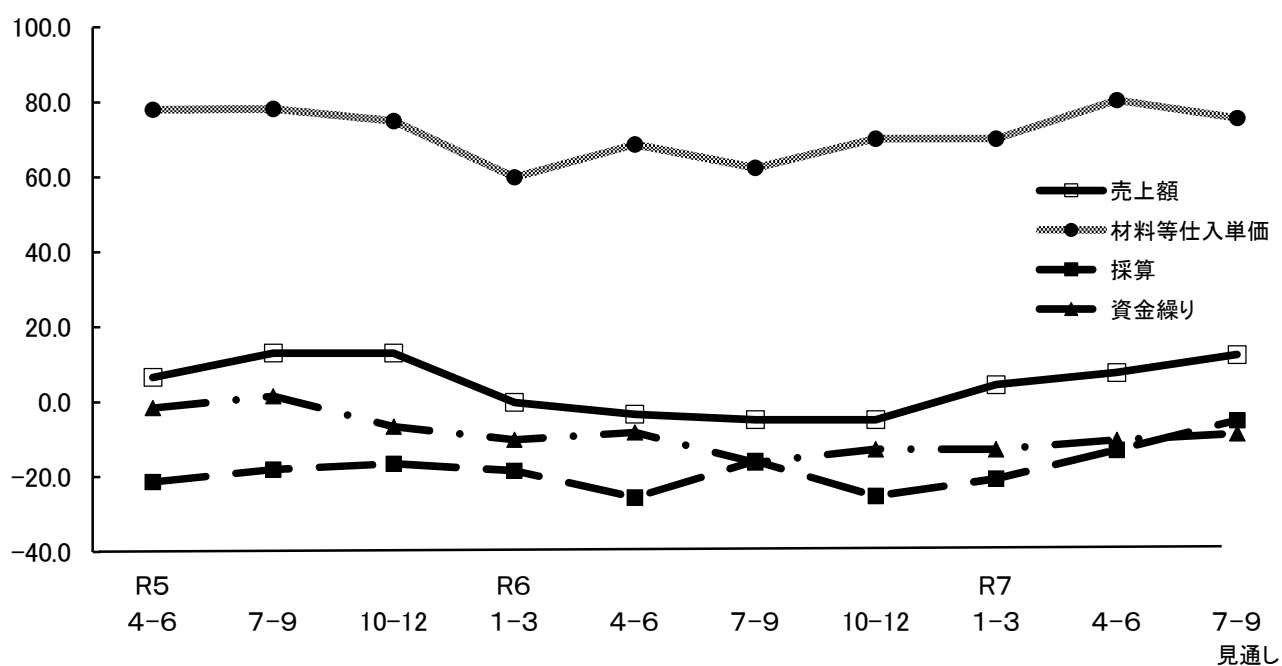


⑤経営上の問題点 企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



IVサービス業

主要景況項目の推移ー前年同期比ー



主要項目の天気図

	売上額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
R6/7-9	△ 4.7		△ 15.7		△ 16.1		△ 4.3	
R6/10-12	△ 4.7		△ 25.0		△ 12.5		△ 5.0	
R7/1-3	4.7		△ 20.4		△ 12.5		10.8	
R7/4-6	7.9		△ 12.7		△ 10.0		17.2	
R7/7-9 (見通し)	12.7		△ 4.8		△ 8.3		11.1	

DI: 30.1~.....



DI: 10.1~30.0.....



DI: 10.0~△10.0...



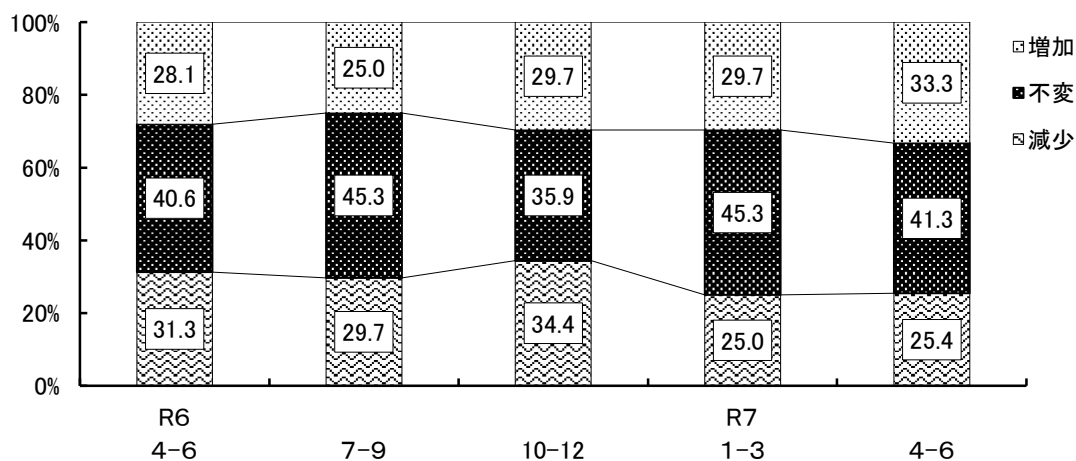
DI: △10.1~△30.0•



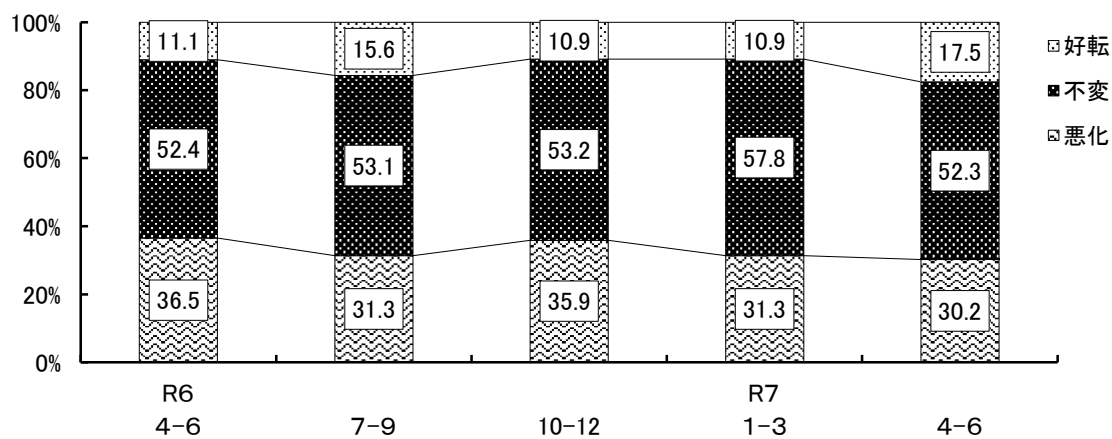
DI: △30.1~.....



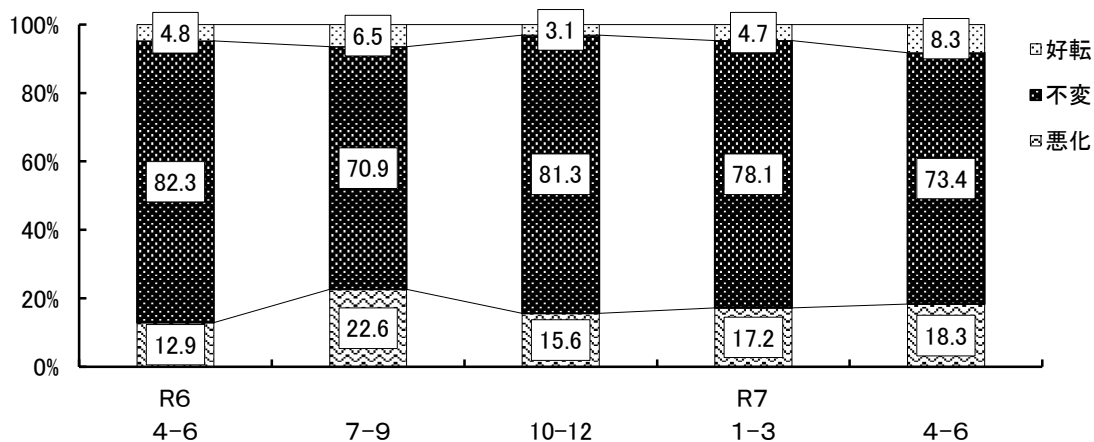
①売上額の状況－前年同期比－



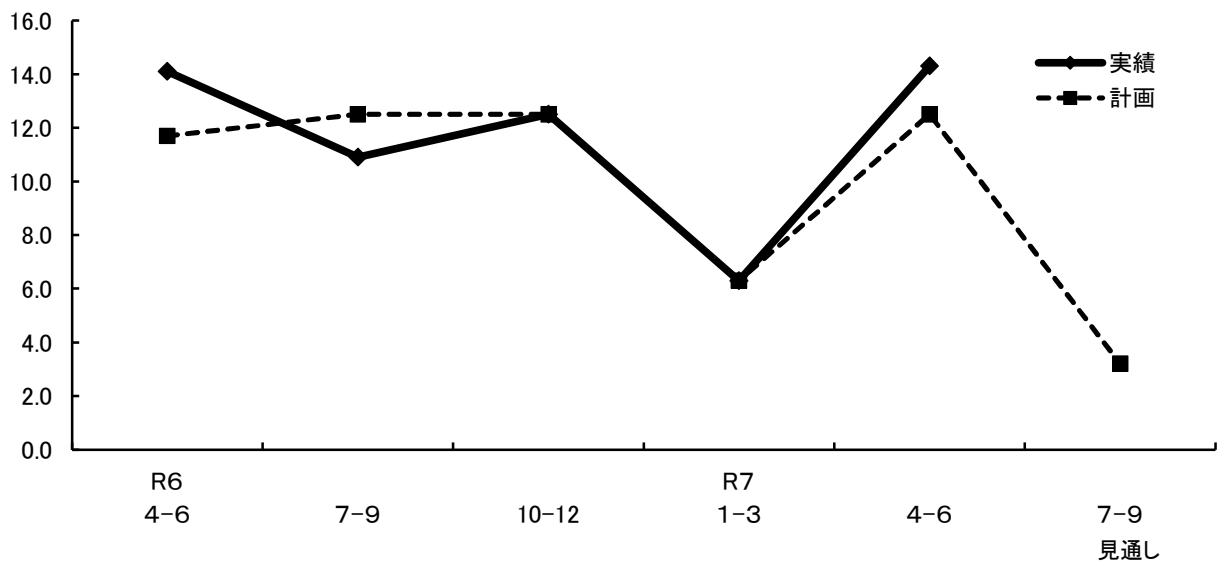
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

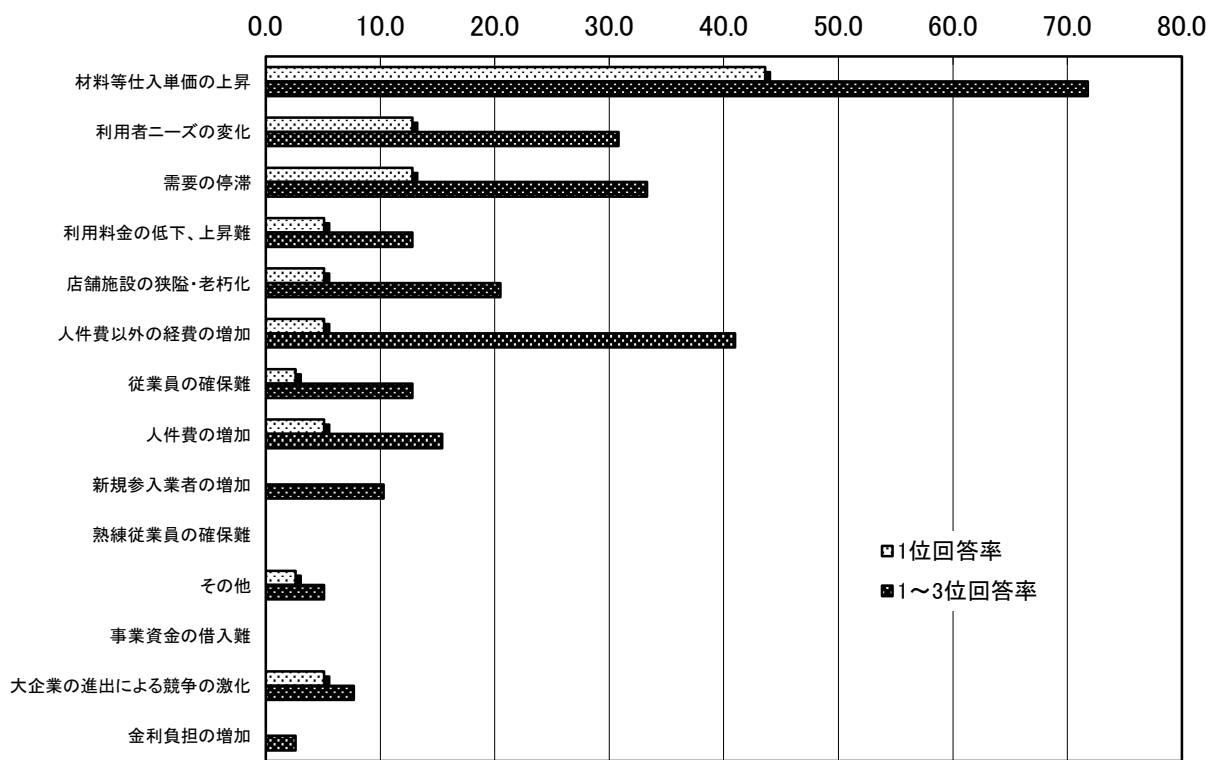


④設備投資の状況



⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



景況判断の背景

製造業

- ◇ 原材料の価格上昇をお客様に理解して頂きながら、販売価格をどこまで上げる事ができるのか、また、販売価格の上昇により販売数量が減ってしまわないか不安を感じる。

【食料品製造業】

- ◇ ルノーグループの治具製造をしているが、物価高騰や世界情勢(関税等)、神奈川日産の件もあり、先行きを注視している。

【輸送用機械器具製造業】

- ◇ 資産の棚卸と今後の展望をしっかりと見据えて事業展開を行うようにしている。常日頃のお付き合いから新たな棚割へ繋がるため普段の姿勢が重要に思う。

【食料品製造業】

- ◇ 原材料他全てが高騰する中、従来の地域のお客様の注文がより少なくなっている。そのため、技術を活かしてニッチな仕事をとり、回している状態である。

【その他の製造業】

- ◇ トランプ関税により車をはじめとする業界全体が様子見で停滞してしまっている。金属資材の高騰はまだまだ続いており下半期の回復も無いように思う。

【電子部品・デバイス・電子回路製造業】

- ◇ 工場が小さく毎日の朝の準備から帰りの片付けの仕事のために使っている時間が多く無駄な時間がある。また、相見積もりが多く価格が停滞している。

【金属製品製造業】

- ◇ 輸出商品の梱包資材を環境に配慮した素材や形状にしたいというニーズにともない自社製品の付加価値が今後とも上昇していくと考えられる。

【パルプ・紙・紙加工品製造業】

- ◇ 原材料・人件費が上昇しているのに対し、加工単価がなかなか上昇しない。

【生産用機械器具製造業】

- ◇ 今期にかけ取引先4社できたが赤字 社長兼技術者のため生産力に限界 売上増の策を検討中。

【窯業・土石製品製造業】

建設業

- ◇ 受注件数は減少傾向にあるが、物価高騰もあり材料価格や人件費を転嫁できているため、経営的には問題なく運営出来ている。

【総合工事業】

- ◇ 建築基準の見直しにより若干低調気味だが、元請けがしっかりした会社なのでそこまでの影響は受けていません。細かな材料価格の上昇があるものの、全体としては前年と比較しても同程度で推移しています。

【職別工事業(設備工事業を除く)】

- ◇ 代表取締役の変更や公共工事の受注が不透明である。

【総合工事業】

- ◇ 個人事業主に対するインボイス制度に対して、廃止を求めたい。

【職別工事業(設備工事業を除く)】

小売業

- ◇ 仕入単価の増加と人件費の増加により、急激な業況悪化を招いている。商品への価格転嫁を部分的に始めるも、需要の停滞や減少を感じる。高齢者に支持されている商品は顕著な様子。

【その他の小売業】

- ◇ 仕入単価の上昇、最低賃金の上昇が大きいと思う。材料費が上がって商品を値上げしても、また、すぐに材料費が上がってしまう。

【飲食料品小売業】

- ◇ 顧客減少、経費増大による値上検討など様々な問題を抱えているのが現状。

【その他の小売業】

- ◇ 従業員の高齢化。

【飲食料品小売業】

- ◇ 全体的な仕入単価の上昇で切花メインから花以外に比重を持っていかなざるを得ない。生き物を趣味で扱う素人介入の中、差をつけるためにも大型店舗等への卸先の開拓をするなど検討している。

【無店舗小売業】

- ◇ 整備の方は通常通りだが、自動車販売の方で仕入額があがってしまっているため、調整はしているものの一度の支出額が高くなってしまい、若干運転資金に幅が必要となってきている。

【機械器具小売業】

- ◇ 商品1点1点の価格上昇で、お客様が1回の購入額を抑える傾向が出てきており、販売点数が伸びない。

【飲食料品小売業】

- ◇ 季節と地域柄春はイベントが多く天気もハマって注文が出たため景気は良かった。地域のイベントが大きくなり新規イベントもあったり波はあるが臨機応変に対応して採算に繋げている。

【飲食料品小売業】

- ◇ 人件費や経費の増加で売上利益は変わらないので利益が年々少なくなっている。

【飲食料品小売業】

- ◇ 仕入単価や物価の上昇の中、販売単価を簡単に上げることもできないため、厳しい状況にある。

【その他の小売業】

- ◇ 物価、手取り、最低賃金、社会保険等のバランスがとりづらい→採用が難しい。

【機械器具小売業】

- ◇ 客数も減ってる気がするし、商品が値上がっているの、買わない人も多い。

【その他の小売業】

サービス業

- ◇ 少しずつ全体の経費が増加。業界的に料金のUPが難しいので純利が減っている感じ。料金UPは1回したので難しい。

【洗濯・理容・美容・浴場業】

- ◇ 物価高騰に対して消費者の収入が伴わず景気が冷え、需要が停滞してしまっている。賃貸料が見合わなくなってしまったので移転し、現在は収支トントンで運営出来ている。

【洗濯・理容・美容・浴場業】

- ◇ 主業と親和性がある新事業を始めたが軌道に乗るまでまだ時間がかかる。一番のネックは人材難でニーズがあっても対応できていない。

【その他の教育、学習支援業】

- ◇ 経済が冷えているせいか、若干来店頻度が遠のいたお客様がいるが、基本的にはサイクルはこちらで決めていることもあって、そこまでの影響は出ていない。

【その他の生活関連サービス業】

◇ 仕入の単価が上がりすぎています。

【飲食店】

◇ 店舗を移転し、広く、新しくなったことにより、一時的に顧客は増えた。しかし、継続していけるかどうか不安もある。

【洗濯・理容・美容・浴場業】

◇ お客様方の高齢化により客数減が止まらない状況。物価高騰で価格を上げられない(心苦しい)。

【洗濯・理容・美容・浴場業】

◇ 物価高騰のためか前年より客単価が低下している。特に居酒屋なのに飲物の注文が少なく、食事も低単価の料理ばかり。経費を切り詰めているが、限度がある。値上げを検討しているが、客離れが気になり、踏みこめない。

【飲食店】

◇ 景気悪化によるライフプランの見直し等で行われる車両保険の解約。それに伴う客単価減少。

【自動車整備業】

◇ 現時点で大きな問題なし。新規サービスやプロモーションをしないと顧客に飽きられてしまい経営が立ちいかなくなる。どのように今のリソースを改めてブラッシュアップしていくか考える必要がある。

【飲食店】